

— 神現祭聖体礼儀 —

いつもと違うところ

2015 Nagoya

---始まりから大連祷までいつもと同じ---

第1アンティフォン 第113聖詠

ソロ 附唱、救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

右 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

第1アンティフォン 附唱

救世主や 生神女の祈禱によつて、我等を救いたまえ

ソロ 第一句、イスライリ エギプトより出で、イアコフの家異邦民より出でし時、

左 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

ソロ 第二句、イウダは神の聖所となり、イスライリは其領地となれり。

右 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

ソロ 第三句、海は見て走り、イオルダンは後へ退けり。

左 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

ソロ 第四句、海よ、爾何事に遭ひて走りしか、イオルダンよ、爾何事に遭ひて後へ退きしか。

右 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

☆ソロ 光荣、今も、

両方 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

---小連祷---

第2アンティフォン 第114 聖詠

ソロ イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril ルイ ヤ」を歌ふ者を救ひ給へ

右 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril ルイ ヤ」を歌ふ者を救ひ給へ

第2アンティフォン 附唱

ソロ 第一句、我喜ぶ、主の我が聲、我が祈りを聴きしに因る。

左 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril ルイ ヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

ソロ 第二句、彼は其耳を我に傾けたり、故に我在世の日に彼を呼ばん。

右 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril ルイ ヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

ソロ 第三句、死の病は我を圍み、地獄の苦は我に臨み、我辛苦艱難に遭へり、其時我主の名を呼べり。

左 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril ルイ ヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

ソロ 第四句、主は仁慈にして義なり、我が神は慈憐なり。

両方 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril ルイ ヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

つづいて「光栄」、「今も」、

神の独生の子ならびに言よ

死せざる者にして、我等を 救はん為に 甘じて 聖なる生神女、永貞童女マリヤより 身

取り、性を易えずして 人と為り、十字架に釘うたれ、

死を以て 死を踏み破りし ハリストス神よ、

聖三者の一として、父 及び 聖神と共に 讚栄せらるる主よ、我等を 救い給え。

---小連禱---

第3 アンティフォン 第117 聖詠

誦經者 (第一句)、主を讚榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐は世々にあればなり。

右 (讚詞、第1調) 主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾を證して至愛の子と名づけ、聖神^oも鴿の形に顕れて言の確なるを示せり。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。

誦經者 (第二句)、イズライリの家今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世々にあればなり。

左 (讚詞、第1調) 主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾を證して至愛の子と名づけ、聖神^oも鴿の形に顕れて言の確なるを示せり。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。

誦經者 (第三句)、アアロンの家今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世々にあればなり。

右 ((讚詞、第1調) 主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾を證して至愛の子と名づけ、聖神^oも鴿の形に顕れて言の確なるを示せり。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す

誦經者 (第四句)、主を畏るる者今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世々にあればなり。

左 ((讚詞、第1調) 主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾を證して至愛の子と名づけ、聖神^oも鴿の形に顕れて言の確なるを示せり。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。

(楽譜は次ページ)

主よ、なんじが イオルダンに 洗を 受くる とき

聖三者の ^{けいはい}敬拝は ^{あらわ}顕れたり けだし ^{ちち}父の ^{こえ}こえ

爾を証して 至愛の子と名づけ 聖神も 鳩の形に ^{あらわ}顕れて

^{ことば}言の確かなるを示せり。あらわれて 世界を照らしし

ハリストス かみよ 光栄は なんじに 帰す。

小聖入

(詠) 来れ ハリストスの前に 伏し^{おが}拝まん、
神の子、イオルダンにおいて洗を受けし主や、
我等^{なんじ} 爾に「ア ril イヤ」を 奉^{たてまつ}る者を 救い給え、

単音の時はS

来たれ ハリストスの ま—えに 伏しおが ま—ん

か みの 子 イオルダンに 洗 を受けし 主や、

なんじ 爾にア ril イヤを たてまつ るもの を すくいたま—え。

トロパリとコンダク)

<トロパリ (1調)> (いつもの「我が霊や」と同じメロディ) 第3アンティフォンに記載

主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、

蓋父の聲／爾を證して至愛の子と名づけ、／聖神^{はと}も鳩の形に顕れて^{ことば}言の確なるを示せり。

現れて／世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

<コンダク 4調> (ニコライのトロパリと同じ)

主よ、爾は今日世界に現れ、／爾の光は我等に印されたり、

我等爾を承け認めて歌ふ、／近づき難き光よ、

爾来り、爾現れ給へり。

【トロパリ】

主よ、なんじが イオルダンに 洗を受くるとき

聖三者の ^{けいはい}敬拝は ^{あらわ}顕れたり けだし ^{ちち}父の ^{こえ}こえ

爾を証して 至愛の子と名づけ 聖神も 鳩の形に ^{あらわ}顕れて

^{ことば}言の確かなるを示せり。あらわれて 世界を照らしし

ハリストス かみよ 光榮は なんじに帰す。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

コンダク 4調

主よ、爾は今日 世界に現われ 爾の光は我等に印されたり

我等爾を承け 認めてうたう 近づき難き ひかりよ

爾、来たり、爾現れたまえり

ハリストスによって洗を受けしもの

(聖なる神の代わり)

右 ハリストスに依って洗を受けしもの、ハリストスを衣たり、アリルイヤ

左 ハリストスに依って洗を受けしもの、ハリストスを衣たり、アリルイヤ

全員 ハリストスに依って洗を受けしもの、ハリストスを衣たり、アリルイヤ

全員 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

全員 ハリストスを衣たり、アリルイヤ

全員 ハリストスに依って洗を受けしもの、ハリストスを衣たり、アリルイヤ

ハリストスに よつて 洗を受けしもの ハリストスを 衣た - り

3回

アリルイヤ 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

ハリストスを 衣た - り アリルイヤ ハリストスによって

ポロキメン

主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり、我等を照せり。
句、主を讃榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐は世々にあればなり。

ポロキメン 4調

主の名に依りて来る者は崇め讃めらる

主はかみなり 我等を照らせり。

使徒の誦読はティト書 302 端。

子ティトよ、神の恩寵、衆人に救を施す者は現れて、我等に、不敬虔と世俗の慾とを離れて、自ら制し、義と敬虔とを以て今の世に生を度り、望む所の福、及び大なる神、我等の救主イイススハリストスの光榮の現を待つことを教ふ。彼は我等の為に己を與へたり、我等を凡の不法より贖ひて、己の為に選ばれたる民、善行に熱心なる者を潔めん為なり。

然れども我等の救主神の恩寵と仁愛との顕れし時、彼は我等が行ひし所の義の功に由るに非ず、乃己の慈憐に由りて、重生の洗、及び聖神の復新を以て、我等を救へり。聖神は、即神之をイイススハリストス我等の救主に由りて、豊に我等に注げり、我等が彼の恩寵を以て義とせられて、望に循ひて、永遠の生命の嗣と為らん為なり。

「アリルイヤ」、第四調、神の諸子よ、主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ。句、主の聲は水の上に在り、光榮の神は轟けり、主は多水の上に在り

福音經の誦読はマトフェイ 6 端。

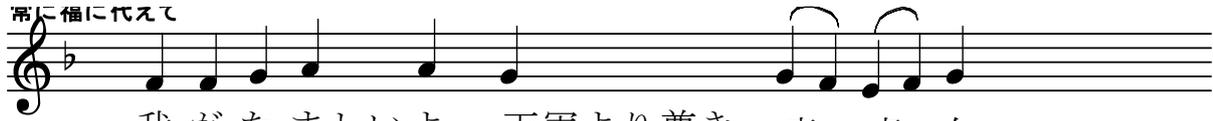
イイススガリレヤよりイオルダンに來り、イオアンに就きて、之より洗を受けんと欲す。イオアン彼を止めて曰く、我爾より洗を受くべきに、爾我に就くか。イイスス答へて彼に謂へり、今姑く許せ、蓋我等は是くの如く凡の義を尽すべし。是に於て之を許せり。イイスス洗を受けて、直に水より上れるに、視よ、天彼の為に開け、神の神鴿の如く降りて、其上に臨むを見たり、且天より声ありて云う、之は我の至愛の子、我が喜べる者なり。

--- 重連禱、ヘルビムの歌、信經、親しみの捧げものまで変わらない---

イルモス第9歌唱 「常に福」に代えて

我が霊よ、天軍より尊き童貞女、至浄なる生神女を讃め揚げよ。
 生神女よ、爾の位に合ひて能く爾を讃美する舌なし、天上の智慧も如何に爾を歌頌するを
 知らず。唯爾、仁慈の者として、我等の信を納れ給へ、我等の熱切なる愛を知ればなり、
 蓋爾は「ハリスティアニン」等の轉達なり、我等爾を崇め讃む。

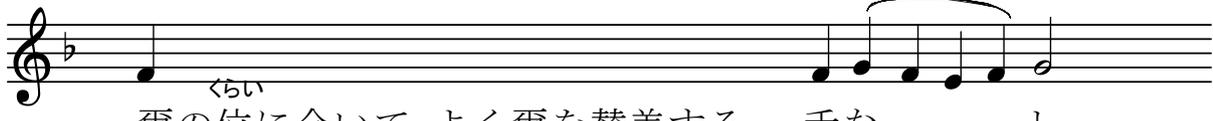
常に福に代えて



我がたましいよ 天軍より尊き 童貞女



至浄なる 生神女を 讃めあげよ 生神女よ



爾くらいの位に合ひて よく爾を讃美する 舌な - - - し



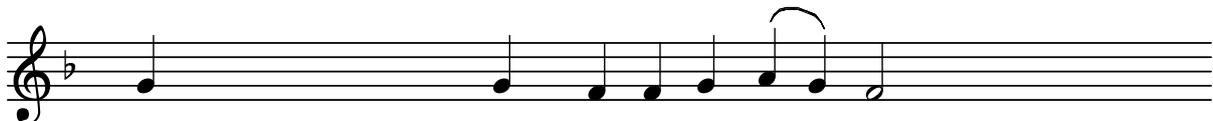
天上の 知恵も いかに 爾を歌頌するを知ら - - - ず



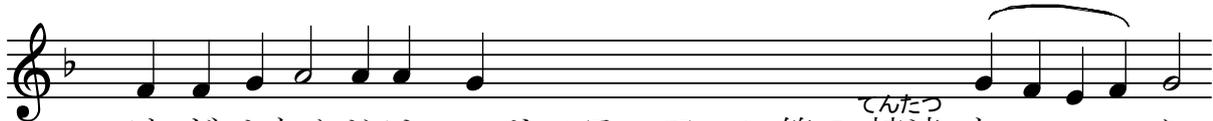
ただなんじ 仁慈の ものとして



我等の信を 入れたま - え



我等の 熱切なる 愛を 知ればな - り



けだなんじは ハリスティアニン等の轉達てんたつな - - - り



我等 なんじを あがめ讃 - む。

